

日本語版は仮訳です。

ツアヒア・エルベグドルジ モンゴル国大統領演説

モンゴルの民主化20年と蒙古斑

2010年11月18日

東京

尊敬する両院議長閣下、
尊敬する国会議員の皆様、
並びにご列席の皆様、

この荣誉ある議場において、古くからの歴史と、自由を持つモンゴルの民を代表して演説を行う機会を賜りましたことを光栄に存じます。

尊敬する両院議長閣下、議員の皆様におかれましては、私たち代表団を暖かく迎えていただき、最高位の敬意を賜りましたことに深く感謝の意を表明いたします。ここにお集まりの尊敬する議員の皆様、ならびに皆様を通じて日本国民の皆様に対し、モンゴルの民の心からの熱きご挨拶を申し上げます。どうぞお受け取り下さい。

私たちモンゴル人は英雄的な歴史と、美しい心と、輝く未来を持つ民です。モンゴルは近代国家を創った古い歴史ある国のひとつです。来年2011年に私たちはモンゴルの原初の国家創設2220年周年を迎えます。モンゴル人は歴史上、地球の陸地の上で最大の国家を築き、文明を創造し、そして広めました。また他の支配下に入り、非人間的な政策の犠牲になった時代もありました。

私たちは過去を悪く言うことが嫌いです。「歴史の良きことも悪きことも自分の先生」として、そこから教訓を得ることに努力します。今日、私はこの議場にて、我が国の極めて新しい歴史の光り輝く時代を代表してお話していることを嬉しく存じます。それは、2010年が、我が国の民が自ら自由な新しい選択をした民主革命20周年の年であることです。

モンゴル人が行った民主革命は、ただ一国のものでなく、万国共通の性格を持つ成果です。モンゴル人の歴史的選択により、人権・自由・尊厳などの価値観は、発展した豊かな先進国の国民だけが享受する特権ではなく、いかなる国の人々も皆、享受することができる真の権利であることを証明したのです。個人は、貧困であっても、貧困国で生活していたとしても、自らの選択によって社会と国家を建設し、自らの選択によって生きることができるのです。

平和的な道筋で、革命的な性格の変革を、社会の全部門に同時に行うことができることをモンゴル人は示しました。政治・経済の変革を同時に行うことは「アジアの国の道ではない」という理解があります。このような古い評価を私たちは新しい選択によって壊しました。モンゴル国は、人口や発展水準によっては小国と見ることもできますが、最近の20年間の民主的で開放的な政策により、我が国はこの分野における大きな模範となっています。

グローバル化する世界において、その名声を轟かせるのには、国の大小や発展水準は、それほど関わりがありません。他に対して、その名前を良きものとして示している民主化の成果を、我が国の民は誇りに思っています。モンゴル人は榮譽を重んじる民です。「名が折れるのならば、骨が折れたほうがまし」と言う人々です。「民主化した国」という定義は、モンゴル国にとって国際舞台に名前を良きものとして表出する、疑いなくひとつの重要な指標であるのです。

モンゴルの国民の最近20年間における成果は、我が政体の2000年の歴史と切り離すことはできません。運命の支配者となって国家の独立と、自立した、自由な状況を確立し強化することは、それぞれの時代における私たちの祖先の熱望でありました。白き馬年に行われたモンゴルの民の新しい歴史的選択の本質はここに 있습니다。簡単に言えば「他人の支配下での幸せより、自分の責任で苦勞せよ」という我が民の金言に、先の選択の内容が合致しています。

国民の新しい選択を実現する過程は容易ではありませんでした。自由を謳歌して生きるというモンゴルの民の数百年に及ぶ努力が今日も続いています。モンゴル人とは多くを経験した、酸いも甘いも噛み分けた人々です。800年前に馬に乗って出立したモンゴルの兵士の家族や子孫ですから、多くを見て、多くを創造したのでありましょう。

「馬に乗って世界を回るのは簡単だが、馬を下りて国家を平定するのは難し

い」と偉大なるチンギスハーンは述べました。広大なユーラシアの地にコミュニスト体制を採用した2番目の国である我が国にとって、最近の20年間で、またその体制を完全に変革したアジアで初めての国となる道は、今でも平坦ではありません。

多くの人々の生活は依然として厳しいです。我が国の人口の3人に1人は国連が定めた貧困水準以下の所得で生活しています。国の官僚主義・権限集中は変わりません。国の意思決定に市民の直接参加と監督は不足しています。市民が参加しない市民社会などあってはなりません。人が享受しない人権などあってはなりません。不公正や失業は我が社会の鋭利な課題であることにかわりありません。

しかし、これらの課題を、モンゴルの国民と、我が政府と、文明化し高性能となりつつある社会の開放された体制が解決する能力を持っているということを私は疑いません。最も重要な信頼はモンゴルの国民にあります。個人としては権利を知り、社会の成員としては義務を意識する、国の政策の良し悪しでなく自分の能力と勤労を恃みにする自由なモンゴル人こそが、我が国の発展と進歩の保証なのです。

国の大統領として私に、また我が国の国会・内閣、全ての国家機関にひとつだけの崇高な義務があります。それは、市民の、民の利益のために奉仕することです。開放的な民主主義国の国民は、国に対して公正・透明・責任・創造を求めます。国家もそうあるために努力するよりほかにありません。これは、モンゴル国が今後も一層文明化した、責任ある、発展と進歩を希求する国であるための基礎の基礎です。

尊敬する議員の皆様、

これから私はモンゴルと日本の関係について話します。両国の関係は特別な関係です。このことは両国国民の交流、希望、活動からも証明されます。

日本において、我が国と友好的に交流するための運動は、1960年代中頃の冷戦期の只中に始まっています。この運動に、我が国に抑留されていた日本の市民が率先して参加しました。今日、日本にはモンゴルと交流する市民団体の数が70以上あります。モンゴルには日本と交流する30以上の団体が登記されています。これはモンゴル人と日本人の交流に関する特別な数値です。両

国の関係には困難な厳しい一時期もありました。しかし由々しき時代の嵐は、我が国の民の心の奥にある、互いに近づいて交流し、友人になりたいという希望の炎を消すことはできませんでした。

モンゴルと日本の関係が独特な特徴を持つことは、私たちの歴史からも証明されます。モンゴル人は日本国と友好関係を結び協力することを、歴史上の新しい重要な時期にはいつも表明していました。例えば、モンゴルの皇帝フビライは、元の国を建設した最初の年に日本の亀山天皇に使者を遣わし国書を送っています。フビライハーンの書簡の写しが、現在、奈良の東大寺にあることは注目すべきです。また20世紀の初頭にモンゴル国が民族の自由と独立を回復し、その歴史的成果を諸国に承認せしめる政策の枠組みで、日本の天皇に、モンゴルの宗教と国政の両方を掌握したボグドハーンから国書が送られました。時代はこの国書を受領させることを許しませんでした。この文書には1912年11月18日と記されています。この歴史的日に、私は国書の写しを演説の最後に両院議長閣下に手渡します。

1990年はモンゴルに民主革命が興り、モンゴルの国民の新しい選択の運命が刃の切っ先にあった時期です。当時の我が国のダシーン・ビャンバスレン首相は、日本政府に対して全面的な支援を要請する手紙を送っていました。またモンゴル国のポンサルマーギーン・オチルバト初代大統領は、1991年に平成天皇明仁陛下の即位の礼に出席し、モンゴルの国民の、日本国と全面的な友好交流をしたいという、かねてからの希望を改めて表明したのです。これは歴史です。これは、歴史の苦しき時も喜ばしき時も、いつもモンゴル国と我が国民は日本国と日本国民に対して期待してきたことの顕われです。

尊敬する議員の皆様、

私たち両国国民の関係のもうひとつの特徴は、共通の価値観と、互いに信頼し深い敬意に依拠していることです。モンゴル人は前世紀の最後の10年間に新しい選択を行い、そして生まれたばかりの子馬のように、自分の足で立つこともままならない状態でした。その辛い時期に日本国民と政府の援助と傾注は命のように重要でした。当時、日本は一国でモンゴルを支援するのにとどまらず、G7先進国首脳会合参加国の注目をモンゴル人の歴史的選択に向けました。発展の新しい道を選んだモンゴル国が国際金融機関や地域の組織に加盟することを支持しました。モンゴル国支援会合を開催するなど、全ての活動に日本国政府が先頭に立って参加しました。

これら全ては、当時の日本の総理大臣であった海部俊樹先生のご尽力、ご参画なしには考えられません。先生は1991年モンゴル国に対して歴史的訪問を行われ、モンゴルの民主化を支援する日本の政策を発表されました。その政策を、その後の歴代日本政府は豊かにし、一貫して実施して下さいました。モンゴルがモンゴルを見つけ、世界がモンゴルを見つけ、モンゴル人が自立して立ち上がるために、日本の国民と政府から評価しきれないほどの大きな手助けを賜りました。この心深くからのご支援に対して、日本国民と政府に対して、モンゴル国民と政府は感謝の意を決して忘れません。この感謝を国と国民を代表して、この尊い演壇から、厳しい時期に私たちに暖かい手を差し伸べてくださった全ての日本の皆様と政府に対して何度も何度も述べることは、私にとって光栄なことであります。

最近の20年間に、モンゴル国に援助を供与した全ての国と国際機関の中で、日本からの支援は、全ての指標で抜きん出ていることを皆様はご承知でしょう。さらに日本国民・政府からモンゴル国に賜りました、賜っているご支援には、もうひとつの重要な特徴があります。それは、我が国の言い方では、日本からのご支援は常に「眼目を得ている」ことであります。モンゴル国の籠の火が絶える危機に直面した時期に、日本の皆様は石炭鉱山や火力発電所に極めて必要な資金協力をして下さいました。モンゴルで公共輸送が止まって、都市部の人々が乗る輸送手段がなくなったとき、日本政府から乗り物が供与されました。地方から都市への人口流入により、多くの子どもたちの幼稚園や学校が不足したときには、日本政府からの援助で、日本の納税者の財源で、多くの幼稚園と学校が改修・建設されました。今も建設されています。病院の救急車が老朽化した時、消防自動車が出なくなった時、極めて重要な薬品が不足した時、日本からそれらが、そのたびごとに届いたのです。雪害などの自然災害に襲われた時は、私たちはまず日本国を頼みにします。

このような例は、モンゴル日本関係の多くの分野で、いくらでもあげることができます。このような支援が的を射た、眼目を得た支援と言わずに、ほかの何をそう言えるでしょうか。このことをモンゴル人は「苦しい時に友人の質がわかる」と言います。これはまさに真実です。

議員の皆様、

モンゴルと日本の関係は、今日、質的な新段階に進んでいます。そういう可

能性が開かれています。それは、モンゴル国には日本国と多くの分野で互恵的な協力の可能性が整備されていることです。モンゴル国には天然資源があり、日本には高度な技術があると、私たちは長年語ってきました。いまや、この二つの可能性を相互に有効に利用する時期が来たのです。モンゴルにおける日本の投資額と二国間の貿易額は、それほど大きくありません。しかし、これらを飛躍的に増大させる日の「目覚まし時計」が鳴り始めました。モンゴルに投資し、貿易を行い、互恵的な事業を実施したい日本の実業家の皆様に対して、私は言いたいのです。「さあ時間ですよ、起きてください！」と。

ある時期までは、それほどよく知っているわけでもない市場や国に対して、「入るやつには入らせておけ、もう少し様子を見てから考えよう」という手法は正しかったのかもしれませんが。しかし、今日の日本モンゴル関係には、この手法は適当ではありません。いまや、モンゴルに急ぐ時です。ある時期までは、法制度が古い、インフラが未整備だ、政策がわかりにくいなどと、遅れた新興国を見る傾向がありました。今は、そこに改善しなければならないものがあれば、共に改善し、やらなければならないことを共にやり、お互いに利益を創出する新時代が来ているのです。

私たちモンゴル人にとって、新しい社会体制に入るとき、多くのことが初めてのことでした。私たちは多くの過ちを犯しました。また教訓も得ました。私たちは新しいものを創造しながら学んでいます。私たちはよい生徒であるとともに、よい共同者であることを望んでいます。我が国の発展の鍵は、自由で、責任を持ち、時代を感知する、健康で、教育のある、高度に専門的な市民です。今日、モンゴルには様々な高度な技術を持つ専門的人材が必要です。

日本にとって極めて必要であろうレアアース・ウラン・原料炭・銅・モリブデンはモンゴルにあります。モンゴルにとっては、日本からの直接投資と高い技術が必要です。我が国から原料を運ぶのではなく、それを今日の必要に応じて加工し付加価値を付けて、互恵的なビジネスにすることが、モンゴルの国益です。日本からの投資は、モンゴル国の国益に合致する投資なのです。なぜなら、日本からの投資は我が国の「第三の隣国」の最高のスタンダードで、高度な技術の、そしてモンゴル人が苦しい時期に最大の支援をした、今もしている国の投資だからです。

日本の政府開発援助を日本の具体的な関心に合わせて、一定の分野に対して急増させることは、日本の民間投資を大規模に誘致するための一つの方法であ

るかもしれません。日本の投資家にとって、他国を見てから進出することを待つより、政府について進出するほうが、より確実でありましょう。

一時期に比べれば、モンゴル国にはインフラ・エネルギー・鉱山・農牧業・道路建設・金融などの分野で協力し、原料を加工して製品を製造し、国や地域の大規模プロジェクトを開始し、そのような資金を活用して互いに利益をあげる環境・条件・能力が整ってきました。ですから、モンゴル国は投資・人材・技術を含む、日本国政府の「新成長戦略」を支持し、この枠組みでエネルギーに協力することを提案しているのです。

また経済的パートナーシップを強化することで、この分野でのモンゴル日本関係は、北東アジアの模範となることができると確信しています。両国の一方は発展の新しい出発点についたところで、他方は高度に発展した国でありますから、外国に向けて自らを開き、新しい市場と機会を先頭に立って利用し、さらに国益が相互に合致した地域の国と特別の関係を一層拡充することで、発展進歩における多くの課題を互恵的に解決することができると、私は確信しています。この意味でも、今回の訪日で、両国の関係を戦略的レベルに進める目標を掲げ、そのような条件を整備することを目指して、両国が努力していることに、私は極めて満足しています。

両国の地域的・国際的な、防衛・安全保障などの分野の関係が創造的に拡大することを私は確信しています。モンゴル国は日本の世界平和と発展繁栄のための寄与を常に高く評価し、国連安保理常任理事国となる希望を一貫して支持してきましたし、今後もこの立場は変わりません。また、二国間でハイレベルの相互訪問が定例化し、対話の実務的かつ創造的なメカニズムが確立してきたことを嬉しく思います。私たちの国民の友好関係を拡大発展させる際に、日本国の天皇陛下と皇族の皆様が、常に傾注されていることにモンゴルの民は喜びと存じています。

両国の間では、自然環境保護と復元、文化・スポーツ・芸術・教育・地方・個人間交流が、一層広がっています。日本の国民がモンゴル国に査証なしで訪問するようになったことは喜ばしきことです。これは、査証に関する煩雑な手続きをモンゴル側が簡素化しているのにとどまらず、モンゴル人が日本人に示す暖かい心の証であり、日本人すべてにモンゴル国民から送った招待状です。私はモンゴル国大統領として、この国民の招待する気持ちに合意しています。いまや日本人全員が我が国を訪問する大統領からの招待状を持つことになりま

した。

モンゴル人と日本人は両者とも、この世界に「天からの印」をもって生まれてきます。諸国の人々は、その印を、モンゴル人と関連づけて呼んでいます。日本では「蒙古斑（モンゴルの印）」と名付けています。私が演説のテーマを「民主化と蒙古斑」としたことには意味があります。民主化のコンテンツである人権は、「蒙古斑」のように人に授けられるものであって、国から与えられるものではありません。そして「蒙古斑」は次第に身体の中に浸透して見えなくなるが、人権は人間と社会の関係を通じて明徴になるのです。

モンゴルと日本の関係は、天の庇護を受けた、両国の民の心からの希望にある特別の関係です。

両国の国民は一緒になってさらに多くを創造することができます。モンゴルの国民の心からのご挨拶を、同じ天からの印を持つ日本の民にお届けする、この特別な機会を与えてくださいました皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

すべての善きことが、一層広がり渡りますように。

(了)